



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 75 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒320-0043 宇都宮市桜 3-1-6 吉田ビル 2F
TEL.028-666-0533 <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>

主な記事

<特集>

- ・第19回大会（愛知大会）報告
- ・公開シンポジウム（愛媛）報告

<連続講座>

- ・各地における特別支援教育の取り組み
（滋賀県立日野高等学校）
- ・S.E.N.S.の会滋賀支部会

<TOPICS>

- ・来年度以降の大会について



笑顔のあふれる学校、 居心地のいい学校を求めて

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

藤 井 茂 樹

全国の小中学校を訪問したとき、先生方に元気がないといつも感じます。学校がここ最近忙しくなったことも、一つの要因かもしれません。放課後、子どもたちと遊ぶ時間がない。会議も減っていない。増えたのは事務量と先生方は言う。子どもたちも、以前に比べ変わってきています。発達障害のある子、虐待を受けている子、不登校の子等、様々なタイプの子どものクラスにいるのです。保護者への対応も難しくなっている状況です。

授業に目をやると、様々な子への対応がうまくいかず、授業が成立しない場面を多く見ます。ある大規模校の1年生のクラスでのエピソードです。担任の先生が優しく注意すると、子どもが「うざい、おぼん、向こうに行け」と言い返したのです。それを聞いた担任の先生の顔は、見る見るうちに鬼瓦に変わり、厳しく怒るのです。子どものことばにすぐさま反応するのではなく、子どものことばを受け止め、余裕を持って子どもにことば

を返すことができないのです。子どものすること、話すことには必ず理由があり、その背景を探ることから子どもとの絆を深めることが必要です。先生方の余裕のなさ、先生方同士の協力関係の希薄さが起因しているように思われます。

今、学校に求められていることは、子ども一人ひとりにとって学校が「居心地のいい場所」であることです。そのためには、校長先生をはじめ先生方が笑顔で子ども達とかかわること、先生方同士が仲がいいことです。互いに分かり合い認め合う人と人の関係を、子どもたちに見せることから、特別支援教育を進めていくことが重要ではないでしょうか。

先生方一人ひとりに求められていることは、「授業で勝負」すること、つまり授業を通して様々なタイプの子どもたちに寄り添い、きめ細やかな対応をすることだと思います。日々、笑顔で、子どもと対峙する先生であってほしいものです。